

「パウロ、フェストゥスの前で訴えられる」

2016年09月21日

使徒言行録 25 章 1 節～7 節 フェストゥスは、総督として着任して三日たってから、カイサリアからエルサレムへ上った。祭司長たちやユダヤ人のおもだった人々は、パウロを訴え出て、彼をエルサレムへ送り返すよう計らっていただきたいと、フェストゥスに頼んだ。途中で殺そうと陰謀をたくらんでいたのである。ところがフェストゥスは、パウロはカイサリアで監禁されており、自分も間もなくそこへ帰るつもりであると答え、「だから、その男に不都合なところがあるというのなら、あなたたちのうちの有力者が、わたしと一緒に下って行って、告発すればよいではないか」と言った。

フェストゥスは、八日か十日ほど彼らの間で過ごしてから、カイサリアへ下り、翌日、裁判の席に着いて、パウロを引き出すように命令した。パウロが出廷すると、エルサレムから下って来たユダヤ人たちが彼を取り囲んで、重い罪状をあれこれ言い立てたが、それを立証することはできなかった。

ローマの総督はフェリクスからフェストゥスに代わった。前任のフェリクスはパウロからお金（保釈金）をもらおうとする下心で、2年間もパウロを監禁し、裁判を進めようとしなかった。被告から保釈金をもらうことはローマ法に違反することで、彼は違反を承知で要求する人物であった。フェリクスは総督を解任されているが、彼の治世には、シカリ派などの反ローマの暴動が多かったことが理由であると想像される。しかしパウロにとって、無為に過ごす2年間は長い年月であったであろう。

新任のフェストゥスは着任して3日たってから、就任挨拶のためカイサリアからエルサレムに上った。フェストゥスの所に、祭司長やユダヤ人の主だった神殿当局の人々が表敬訪問に来た。そこで、彼らはパウロの罪を最高法院で裁くために、エルサレムに送り返すように計らっていただきたいと申し出た。パウロをエルサレムに護送する途中で暗殺する陰謀を企んでいたのである。彼らの申し出に対し、フェストゥスは、パウロはカイサリアで監禁されており、自分も間もなくそこへ帰るつもりであると答え、「だから、その男に不都合なところがあるというのなら、あなたたちのうちの有力者が、わたしと一緒に下って行って、告発すればよいではないか」と言った。彼は、前任のフェリクスから、パウロはローマの市民権を持つ者であるから慎重に扱わなければならないこと、ユダヤ人のある者たちがパウロを殺すまでは飲食を断つとまで、固い決心をしていることを聞いていた。だから、パウロをエルサレムに送ることなく、カイサリアで裁判をしようと言ったのであろう。彼らはフェストゥスの言葉を受け入れざるを得なかった。

フェストゥスは10日ほどして、用を済ませ、カイサリアへ下った。パウロを訴えるユダヤ人たちも同行して下って来た。フェストゥスにとって、パウロの裁判が最初の政務であった。早速翌日に、彼は裁判を開いて席に着き、パウロを引き出すように命じた。パウロが出廷すると、エルサレムから下って来たユダヤ人たちが彼を取り囲んで、重い罪状を言い立てた。2年前、弁護士テルティロが訴えたように、パウロは疫病のような男でローマの平和を乱し、ユダヤ人の間で騒ぎを起こしている「ナザレの分派」の首謀者で、ユダヤ人が最も大切にしているエルサレム神殿を冒涇したという3点を中心に、大仰に告訴した。しかし、それらの訴えのどれ一つも立証することができなかった。この裁判でも、パウロに対する神殿当局の怒り、敵意がいかに大きなものであったかを示している。